

## 平成 25 年度 事業報告書

平成 25 年 1 月 1 日 から 平成 25 年 12 月 31 日 まで

認定 NPO 法人 江戸城天守を再建する会

### 1. 主な事業の成果：

当会は、平成 25 年度通常総会で「2020 年には、江戸城天守再建の夢を実現すべく、専心道なき道を切り開いて前進して行きたい」とし、3 段階のアクションプランからなる“ロードマップ”の展開を打出した。25、26 年度はその第 1 段階と認識し、初年度の諸課題に取り組んで来た。

#### 1) 権威ある第三者機関への諮問とシンクタンクへの調査委嘱：

当会が一市民団体として進めて来た「江戸城天守再建」運動に対する客観的評価と今後の可能性について、公益財団法人 日本都市計画学会に諮問すると同時に、「江戸城天守再建」による経済波及効果と雇用創出効果等について、シンクタンク・(株)日本経済研究所に調査を委託した。

各分野の有識者、専門家を集めた委員会による約半年間に及ぶ精力的な調査検討が重ねられた結果、日本都市計画学会からは、江戸城再建の取組みに関して、「首都東京再生への寄与」「耐震構造技術、材料調達の実現性」「建設手続の法的可能性」「事業費約 350 億円、民間主導プロジェクトとしての実現性」等の具体的検証と評価、加えて江戸城を中心とする「歴史街づくり再生ゾーン」等の提案を戴いた。また、日本経済研究所からは、経済波及効果が初年度で約 1000 億円、雇用創出効果が約 8000 人とする算出結果が報告された。

これら調査研究の成果は、10 月 25 日の新聞記者発表及び 11 月 27 日の記念集会・シンポジウムで披露された。これは、会員はもとよりホームページ・フェイスブック、マスコミを通じて広く一般社会にアピールされ、改めてこのテーマへの認知の拡大と実現可能性への関心の更なる高まりが期待される。

#### 2) 政官財、各界各層への働きかけ：

江戸城天守再建の趣旨に賛同、支援して頂ける人々の輪を、更に広く、大きく広げていく為、政官財、各界各層に向けて、幅広く PR 活動を行った。2020 年の東京オリンピックの開催決定とも相まって、江戸城再建に向けた気運も確実に醸成されてきているものとする。

#### 3) 魅力と活力ある組織づくり：

当会の再建活動は、次なるステージに向け、いま大きくステップアップを図るべき転換点に差しかかっている。改めて、天守再建は新しい国づくりの起点になるとのビジョンを明確に持ち、会員一人ひとりが自らの役割を自覚、共有し、生き活きとして諸活動に参加する場、仕組みづくりを進め、より幅広い世論の高まり、より多くの共感、支持を集めて行くことが重要になっている。そうした問題意識を持って、以下のテーマに組織を挙げて取り組んできた。

##### ①「魅力ある活動展開」

\* 「江戸城天守の再建を目指す会」改め「江戸城天守を再建する会」の発足記念集会(11/27)は、観光庁・林野庁の基調メッセージに始まり、前述の調査・研究委託の審議に加わった専門家、有識者によるシンポジウムを設定し、江戸城再建の意義と可能性について、様々な角度から示唆に富む説得力ある発言が交わされ、会員を始め多くの聴衆の共感と高い評価につながった。

- \*江戸の歴史文化を歩きながら学ぶ黒田涼氏の「江戸城を歩くシリーズ」は毎回好評を博した
- \*「第一回江戸城寄席」は千代田区観光協会から後援・協力を戴き、成功裏に開催できた。
- \*木造で天守再建をめざす東海道沿線 5 城による「東海道・城サミット」が開催され、これに参加して意見交換を行い、今後の連携を約した。
- \*千代田地域でのチラシ配り、イベントへの参加等を通じた PR・賛同署名活動は、年間を通し延べ52日の開催、チラシは3万枚超の配布、賛同署名は7000枚を達成した。
- \*特別委員の会議では、ファミリーツリーによる「有難うコール」をはじめ会員勧誘や賛同署名の推進等、着実な活動を展開しつつある。

## ②「事業活動を支える無償ボランティアの存在」

事務局の日常的なあらゆる作業から、高度な専門知識が必要な業務に至るまで、これらを支えているのは、無償のボランティアの存在である。それなくしては、持続可能な組織運営は到底不可能であることを、ここに改めて感謝を以て確認しておきたい。

なお、再建運動の進展に伴って、今後とも益々業務の増加、多様化・深化が見込まれており、これには、高度な専門知識やスキルを有する外部有識者との連携、協力を得ることが不可欠になりつつあるが、同時に事務局体制としても、複数の有償スタッフの専従化による対応が急務となっていることを銘記すべきものと考えている。

## ③「募金活動（ファンド・レイジング）の成果」

「江戸城再建基本構想・特別基金」を設定し、年4回の寄付・募金キャンペーンを通じて、篤志家を始め、多くの一般市民のご理解、ご支援を戴いた。その結果、平成25年度の寄付金実績は、約1600万円に達し、江戸城再建の意義研究とその成果のアピールや新事務所移転に結実すると共に、財務基盤の強化にも寄与した。

このような寄付金と並んで、企業の社会貢献（CSR）の立場から、事務局の業務サポートやボランティア協力などによる極めて多大な支援が寄せられた。

今後の事業の本格的展開に伴い、事業活動の一層の拡大、深化が見込まれており、寄付募金活動においても、より多角的な取組みと併せ、新たな資金調達方式に向けた検討を始めている。

## ④「事務局体制と新事務所移転、情報公開の推進」

先に述べた通り、複数の専従要員化は必須課題となっているが、本年度は、CSR企業の協働も得て、事務局業務のシステム化や効率化の推進により対処して来たが、中でも、情報発信の活性化に向けては、かわら版、ホームページ、フェイスブックのシステム、内容の刷新を実現した。これにより、其々のメディアの特性を活かした活発な情報発信の道が開かれ、特にHPをはじめとする各種レスポンスの増加等、著しい成果を挙げる事ができた。

限界に達していた事務所のPC等の設備や、事務、会議、収納等のスペースの問題は、資金的に一定の目途をつけたところで、10月17日に凡そ3倍の面積の新事務所への移転で解決でき、事務室、会議室等の事務環境は格段に改善された。この移転に関する企画、デザインから、実行計画、資料整理、搬出入等一連の作業は、通常業務のタイトな日程の中で、ボランティアの参加した事務局を中心としたチーム編成で成し遂げられたことを明記しておきたい。

この間、24年度事業報告、計算書類等並びに認定NPO法人の法的義務である23種の書類による情報公開の一方、個人情報保護法の遵守についても鋭意取り組み、当会事務所、東京都、国税庁で閲覧・公開した。

## 2. 事業の実施に関する事項

## (1) 特定非営利活動にかかる事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数(人)	受益対象者範囲・人数(人)	支出額(千円)
① 再建江戸城の、規模・様式、実施方法等、その具体化のための調査・検討を行う事業	当会の再建運動について、客観的な妥当性評価、再建実現への技術的検証、今後の運動発展の可能性評価を、権威ある第三者機関（公）日本都市計画学会）への諮問と、シンクタンク（株）日本経済研究所）へ調査を委託した。	通年	都内	5	不特定多数	2,430
② 江戸時代の文化、歴史等の情報収集、調査・研究を行う事業	その調査研究成果において、再建運動の意義と可能性が高く評価された（詳細は1. 主な事業の成果1）参照）。またそれらは、プレス発表並びにシンポジウムの開催を通じ、広く社会一般にアピールされた。	通年	都内	10	不特定多数	5,989
③ 意義・必要性及びその実現方法等を広く広報宣伝する事業	・情報誌「江戸城かわら版」発行 ・ホームページ、フェイスブックを活用し、当会の活動紹介を実施した。 ・大手門前等においてPR・賛同署名活動を実施した。	通年	事務所等 事務所等 都内	5	不特定多数	3,619
④ 世論喚起のためのシンポジウム・イベントを実施する事業	シンポジウム 「江戸城天守を再建する会」発足記念集会を開催し、再建運動の意義と可能性を発表した。 イベント ・黒田涼氏「江戸城址を歩くシリーズ」 江戸城外堀お花見 江戸城縦断・現存城門総ざらい 江戸城外堀から内藤新宿 ・江戸城寄席 ・木下栄三氏「江戸城重ね絵図で歩く」	11月 3月 5月 11月 9月 11月	都内	30 5 5 5 10 5	不特定多数 (200名) (31名) (28名) (25名) (180名) (27名)	2,423
⑤ 江戸城再建に関わる各種団体・機関と連携をする事業	・千代田地域のイベント(ファミリーバザール、カレエグランプリ)等に参加し、賛同署名活動を実施した。 ・「東海道 城サミット」へ参加した。	通年 12月	都内 神奈川県	250 (人・日) 10	不特定多数	695

## (2) その他の事業

該当なし

